

忠岡町立忠岡中学校

国語A:聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して話す。

課題が見られる設問

1ー2
石田さんは、リハーサル後に友達から、場面③の傍線部「成否」の意味が分かりづらいので、聞いて分かりやすい表現に直した方がよいというアドバイスをもらいました。どのような言葉に直すか。次の□に当てはまる言葉を十字以内で書きなさい

この設問を選んだ理由:無回答率が18.8%と高く、正答率は全国と比べて低いため。

正答率 本校:50.9%
大阪府:63.3%
国:65.0%

考えられる課題

習得している語彙が少なく漢字から意味を推測することや物事を説明することに課題が見られる。

これからの指導の方向性

文章を読む際に文脈から推測して語句の意味を考えるなど「言葉」に注目し、暗記だけでない意味の捉え方に取り組む。また、プレゼンテーションなどで自分の考えを説明する機会を多く設定する。

国語B:文章の中心的部分と付加的部分を読み分け、要旨を捉える。

課題が見られる設問

2
1
【雑誌の記事の一部】に書かれて
いることとして、最も適切なものを次
の1～4までのの中から一つ選びなさい。

この設問を選んだ理由:正答率は全国平均に比べ、10ポイント低い。

正答率 本校:57.9%
大阪府:67.3%
国:67.3%

考えられる課題

文章の概要しかとらえておらず、一つひとつの語句の詳細な意味やニュアンスをよく理解していない。

これからの指導の方向性

文章中で述べられている内容を精密に理解し、確認する段階的な質問を設定した授業を工夫する。。

中学校 数学 関数

課題が見られる設問 (A-2-(2))

・赤いテープの長さが a cmで、白いテープの長さの $\frac{3}{5}$ のとき、白いテープの長さを a を用いた式で表す。

考えられる課題

- ・問題の読解力。
- ・分数に対する嫌悪感。

正答率	本校	16.3%
	府	23.8%
	全国平均	22.2%

これからの指導の方向性

- ・分数や小数の概念を確実に理解するため、1年生段階で小学校の復習を適切に実施する。
- ・分数・小数の基本的な問題に取り組みつつ、進度や定着を見て応用的な課題にも取り組むが、その際には考え方のヒントや道筋を効果的に提示する工夫をする。
- ・班活動では、相互の意見交流を進め、理解を促進するよう努める。

中学校 数学 関数

課題が見られる設問 (B-2-(1)、(2))

- ・連続する3つの整数が19, 20, 21のときそれらの和が中央の整数の3倍になるかどうかを確かめる式を書く
- ・連続する3つの整数の和が中央の整数の3倍になることの証明を完成する。

考えられる課題

- ・問題場面における考察の対象を明確に捉えられない。
- ・事柄が成り立つ理由を構想を立てて証明することに課題がある。

正答率	(1)	(2)
本校平均	66.1%	36.9%
大阪平均	77.6%	43.7%
全国平均	78.8%	43.1%

これからの指導の方向性

- ・文字を使って法則性のある問題を証明できるように文字式で表す練習を反復する。
- ・証明問題を多く取り組み、その中にあるパターンを発見するような授業を工夫する。

中学校 理科

課題が見られる設問 (7-(3)、8-(3))

- ・キウイフルーツの上に置いたゼリーの崩れ方に違いが見られたという新たな疑問から適切なものを選ぶ。
- ・課題に対して適切な考察になるように修正する。

考えられる課題

- ・つかんだ材料をもとに考察し、文章化する力。

正答率	7-(3)	8-(3)
本校	46.3%	31.1%
府	53.0%	44.0%
全国平均	57.3%	47.4%

これからの指導の方向性

- ・実験結果から得られる考察をまとめられるように、考える時間の確保し、文章化する取り組みを進める。
- ・班活動での発表と互いの意見の共通点・相違点を明確に意識できるようにする。

生徒質問紙 22. 23家庭での予習・復習の時間

22. 家で、学校の授業の予習をしていますか。

23. 家で、学校の授業の復習をしていますか。

これを選んだ理由

本校では、家庭で予習をする生徒が24.7%(する・どちらかといえば含む)で、全国平均との差は10ポイントである。また、家庭で復習する生徒は35.8%で全国平均との差は16.2ポイントに上る。

考えられる課題

予習・復習とも宿題ではないが、自分で学習範囲と方法を考えて行うために割合は低い。全国的にも予習は低くなっているが、本校はさらに低い状態である。

予習や復習をやって「達成感」や「効果」を実感した経験が小学校段階から少ないように感じる。今後、予習の重要性は増してくるので、宿題としての予習など事前の学習が、授業をさらにわかりやすくしたと生徒が実感できるようにしたい。

これからの指導の方向性

- 予習や復習が授業に効果があると生徒が実感できるような工夫をする。
- 宿題としての位置づけを増やす。
- 予習を条件とした授業(調べ学習含む)を展開する機会を増やす。

忠岡町重点目標にむけての分析及び今後の方向性

忠岡町重点目標

①授業内容がわかる子どもをふやす

②授業で自分の考えをまとめ説明や発表ができる子どもをふやす

③家で計画的に学習する子どもたちを育てる

④読書に親しむ子どもたちを育てる

⑤自分には良いところがあると思う子どもたちを育てる



①勉強は好きと答えた生徒の割合は昨年度に続いて低下している。授業改善に努めるとともに授業を欲を高めるためICTの活用や補助教材等を充実させ、活用していく。

②友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意と答えた生徒の割合は国・府とほぼ同等である。しかし、授業で比較的短い意見や答えを述べることはできるが、まとまりのある内容と形式で発表するには課題がみられる。今後は「発表メモ」等を活用して発表する機会を作る。

③家で3時間以上勉強する生徒は全国の2倍の比率である。しかし、与えられた課題や塾以外では、予習・復習する生徒の比率もきわめて低い。2極分化の傾向を改善し家庭学習習慣の定着のため評価活動を促進する。

④1日あたりどれぐらい読書を全くしていない生徒が4割以上もいる。大阪府の比率よりも低いが、大きな課題である。学校図書室、学級図書の整備を促進し、また、生徒会や図書委員のアイデアを活用した取り組みを進めるとともに、小学校の状況や連携を進めたい。

⑤自分には良いところがあると答えた生徒の割合は昨年とほぼ同じである。さらに自分に自信を持てるように授業や行事、人間関係などで今まで以上に達成感や自信を持たせたい。また、結果だけでなく自分や他人の努力も評価できるように本校の相互評価活動を継続したい。